

東中国山地緑の回廊

管轄森林管理局・署	近畿中国森林森林管理局 兵庫森林管理署、鳥取森林管理署、岡山森林管理署
所在地	兵庫県美方郡新温泉町、美方郡香美町、養父市、宍粟市、鳥取県鳥取市、若桜町、八頭町、智頭町、岩美郡岩美町、岡山県西粟倉村
面積	約 7,700 ha
設定年	平成 19 年 3 月
緑の回廊の概要 (設定目的)	野生生物と人との共生を目指し、点在する保護林（ブナ林が主体）を連結する区域を「東中国山地緑の回廊」として設定した。天然林だけでなくスギなどの人工林が比較的多いこと、区域内に民有林も含まれていることが特徴で、総延長は約 42km である。 天然林を分断している人工林を針広混交林や広葉樹林へ誘導し、野生生物の生育地の拡大や相互交流の促進を図る取組を行っている。



沖ノ山国有林



ツキノワグマ



ブナの種

モニタリング調査の概要

調査年度	平成 30 年度（平成 19 年度から調査を継続実施）
調査項目	森林調査（林分構造調査、草本層植生調査）、種子生産量調査、野生動物調査、聞き取り調査
調査手法	各調査プロットにおいて、森林の樹木の組成を調査。森林の下層植生の状況を把握するために、草本層の植生調査（コドラート調査）を実施。ブナ林に設置した調査プロット 2 箇所において、ブナやミズナラの種子生産量を把握するために、ナイロンネット製の種子トラップを設置し、種子生産量を調査。各調査プロットに赤外線センサーによる自動撮影カメラを設置し、緑の回廊に生息する動物の調査を実施。
結果概要	森林調査の結果、間伐などの森林施業を行ったプロットでは、草本層の生育状況にばらつきがあることが確認された。 種子生産量については、平成 30 年度は、ブナをはじめとする堅果類が不作だった可能性が示唆された。 自動撮影調査では、ツキノワグマ、タヌキ、テン、ニホンジカといった哺乳類が確認された。

※モニタリング調査の詳細情報については、森林管理局にお問い合わせください。